

2025年6月4日

報道関係者
地域広報関係者 各位

国際日本文化研究センター

第11回 日文研ー京都アカデミックブリッジ開催のお知らせ

国際日本文化研究センター（日文研）は、次のとおり、第11回 日文研ー京都アカデミックブリッジを開催いたしますので、周知のご協力をよろしくお願いいたします。

発表題目 **世界と見つめる祇園祭**

開催日時 **2025年7月2日（水）18時00分～20時00分（開場：17時30分）**

開催会場 **京都新聞文化ホール**

京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階、地下鉄烏丸線「丸太町駅⑦番出口」直結

参加料 **無料**

主催 **国際日本文化研究センター、京都新聞**

登壇者

パネリスト：ジョン・グリーン（日文研 名誉教授）
タマシ・サブナル・カルメン（兵庫県立大学 教授）
橋本章（京都府京都文化博物館 学芸課長）
コメンテーター：八木透（佛教大学 教授）
進行：駒居幸（日文研 特任助教）



ジョン・グリーン



タマシ・サブナル・カルメン



橋本章



八木透



内容

祇園祭は、千年の時を超えて今なお人々の暮らしに根付き、海外からも多くの観光客が集まる、京都の夏の風物詩です。今回の日文研ー京都アカデミックブリッジでは、日本のお祭りや民俗文化に関心を寄せる国内外の研究者が集い、外と内の視点を交差させながら祇園祭の魅力に迫ります。近代における祇園祭、同じ関西のお祭りである天神祭との比較、そして、祇園祭の歴史を感じるための取り組みなど、国際的な見地を交えた議論を通して、その歴史を引き継ぎ、未来に繋ぐ意義を語り合います。

詳しくは、日文研ウェブサイトをご覧ください。

URL: https://www.nichibun.ac.jp/ja/events/academic_bridge/2025/07/02/ (日文研ウェブサイトへ移動します)

※取材を希望される場合は、京都新聞 COM 営業局までご連絡をお願いいたします。

TEL: 075-255-9757 E-mail: keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

お問い合わせ先：国際日本文化研究センター 総務課総合情報発信室事務室広報係

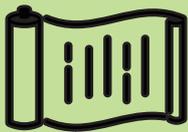
TEL: 075-335-2012 E-mail: kouhou@nichibun.ac.jp

NICHIBUNKEN KYOTO ACADEMIC BRIDGE

第 11 回

日文研 京都

アカデミック
ブリッジ



世界と見つめる祇園祭

パネリスト：ジョン・グリーン（国際日本文化研究センター 名誉教授）

パネリスト：タマシ・サプナル・カルメン（兵庫県立大学 教授）

パネリスト：橋本 章（京都府京都文化博物館 学芸課長）

コメンテーター：八木 透（佛教大学 教授）

進行：駒居 幸（国際日本文化研究センター 特任助教）

2025.7.2（水）18:00～20:00（開場17:30） 京都新聞文化ホール

（京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階）

主催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター、京都新聞

要申込

入場無料

定員200名

（抽選による）



THEME

世界と見つめる祇園祭

祇園祭は、千年の時を超えて今なお人々の暮らしに根付き、海外からも多くの観光客が集まる、京都の夏の風物詩です。今回の日文研—京都アカデミックブリッジでは、日本のお祭りや民俗文化に関心を寄せる国内外の研究者が集い、外と内の視点を交差させながら祇園祭の魅力に迫ります。近代における祇園祭、同じ関西のお祭りである天神祭との比較、そして、祇園祭の歴史を感じるための取り組みなど、国際的な見地を交えた議論を通して、その歴史を引き継ぎ、未来に繋ぐ意義を語り合います。



パネリスト：ジョン・ブリーン (John BREEN)
国際日本文化研究センター 名誉教授

1979年ケンブリッジ大学日本学部卒業、1993年博士号取得。
ロンドン大学SOAS助教授、国際日本文化研究センター教授を経て、2021年より名誉教授。専門分野は日本近代史。著書として『儀礼と権力—天皇の明治維新』(2021)、『神都物語—伊勢神宮の近現代史』(2015)、共編著として『鈴木大拙—禅を超えて』(山田奨治との共編、2020)、論文として「歴史を演じる—祝祭とページェントの近代京都」(高木博志編『近代京都と文化—伝統の「再構築」』2023)などがある。



パネリスト：タマシ・サブナル・カルメン (Carmen SAPUNARU TAMAS)
兵庫県立大学国際商経学部 教授

2009年大阪大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了、日本語日本文化博士。関西学院大学講師、岡山大学准教授、神戸大学講師を経て2018年4月より現職。専門分野は文化人類学・民俗学。著書として『Ritual Practices and Daily Rituals. An Introduction to the World of Matsuri』(2018)、共編著として『Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Literature, and Culture』(Irina Holcaとの共編、2020)、『Epidemics and Ritual Practices in Japan』(Kathryn M. Tanakaとの共編、2022)などがある。



パネリスト：橋本 章 (はしもと あきら)
京都府京都文化博物館 学芸課長

1999年、佛敎大学大学院博士課程単位取得満期退学。2013年、佛敎大学より博士(文学)の学位を授与。専門分野は日本民俗学。長浜市教育委員会市史編さん室、長浜市長浜城歴史博物館、長浜市曳山博物館を経て現職。祇園祭山鉾装飾品等審議委員会委員。京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査事業委員。著書に『近江の年中行事と民俗』(2012)、『戦国武将英雄譚の誕生』(2016)などがある。

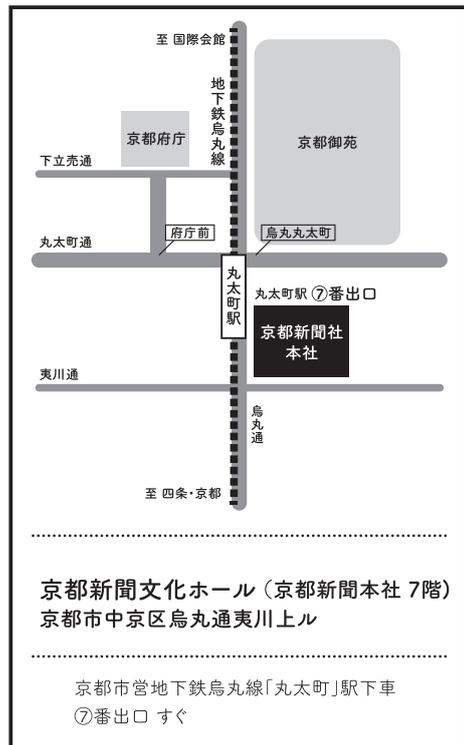


コメンテーター：八木 透 (やぎ とおる)
佛敎大学歴史学部 教授 京都民俗学会 会長

佛敎大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。
1989年同大学専任講師、1993年同大学助教授を経て、2000年4月より現職。専門分野は民俗学・家族史。著書として『日本の鬼国鑑』(監修著、2021)、『日本の民俗信仰を知るための30章』(淡交社、2019)などがある。

進行：駒居 幸 (こまい さち) 国際日本文化研究センター 総合情報発信室 特任助教 (人文知コミュニケーター)

2019年、筑波大学大学院人文社会科学部研究科単位取得退学。2022年、同大学院で『失われた二〇年と女たちのノワール——桐野夏生初期作品論』にて博士(文学)。筑波大学特任研究員、新潟大学URAを経て2023年7月より現職。専門はカルチュラル・スタディーズ、日本近現代文学。人文知コミュニケーターとして、人間文化研究と社会をつなげる活動に取り組んでいる。



京都新聞文化ホール (京都新聞本社 7階)
京都市中京区烏丸通夷川上ル

京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車
⑦番出口 すぐ

参加申し込み方法

締切：2025年6月15日(日) (必着)

参加ご希望の方は、①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス
⑦参加希望人数(複数名参加希望の場合は全員分の①～⑦)を明記のうえ、
はがき、Eメールまたは応募フォームでお申し込みください。
応募多数の場合は、抽選のうえ当選の方に聴講券を送付いたします。

〈はがき〉〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル
京都新聞COM営業局内「日文研—京都アカデミックブリッジ」係

〈Eメール〉 keikaku@mb.kyoto-np.co.jp

〈応募フォーム〉 https://kyoto-np.jp/_ESIWMYE



〔応募フォーム〕

※応募者の個人情報は、京都新聞COMが管理し、本事業の運営と日文研関連事業等のご案内に使用させていただきます。

※本事業の取材を希望される方は、右記のアドレスにご連絡願います： keikaku@mb.kyoto-np.co.jp